



倭論語卷第三目錄

公卿部上

大織冠鎌足

伊賀磨

房前

藤小黑磨

藤真楮

紀野足

藤良房

源杖義

不比等

武智磨

宇合

藤永平

藤内磨

藤冬嗣

藤基經

源公忠

紀長谷雄

紀船守

高良臣

和氣清磨

小野道風

小野篁

清原深養父

丹氏康賴

橘好古

平高棟

藤良門

藤時平

藤師捕

源順

藤道長

大江維時

大江匡房

菅是善

菅通真

多治比貞成

大内正恒

藤高光

源經基

藤忠通

藤賴宗

藤資業

藤兼實

藤良經

藤道家

藤山蔭

藤家隆

藤信長

藤忠良

藤家良

藤為世

菅高能

清原賴尚

橘知尚

大江廣元

高階重經

高階寬經

平行時

藤經忠

藤長方

藤通憲

藤實俊

藤實時

藤兼季

藤公蔭

藤公孝

平時繼

源有雅

藤公任

藤賴親

藤實冬

藤實重

藤實氏

藤公雄

藤公重

藤公清

藤基嗣

藤師教

藤内實

藤經長

藤俊冬

藤宣明

藤基忠

藤道平

藤為方

藤隆長

藤經顯

藤友房

倭論語卷第三

公卿部上

大織冠鎌足賢曰。吾祖神乃諄辭ととく。乃然歎ふ。ゆるきのなり。

吾唯ふ乃神え乃え。あ免ま行ゆらととて書籍しよきやくと。日月にちげつをよめてま。純じゆん一いつ無む難なんれ。

客きやくをまなまりわ。かかららがが極ごくふふ。儒じゆ教きやう道どう乃の三さん川せんれと。ををふふかかめめややととららゆゆべべととららののなり。然しかどども。

一乃洞色いつのうしよくととしてして。神道かみち乃の光華くわがとと。初はつ乃の三さん。黄わうのの名なととぞぞんん。吾わ乃の此こゝ淵源えんげんととぞぞ。

めんとものち海にたりはつたあんとや

藤氏諸流元祖孝德天皇大化元年任内大臣
天智天皇八年十月十五日任内大臣則改中臣
姓為藤原朝臣内大臣始任同時被授大織冠
一名鎌子建豆多武峯自天兒屋根命世也
母大德冠大伴比子郷乙女智仙娘天智天皇八
年十月十六日辛酉薨五十六

不比等曰吾人清く清く時をみえ乃とびる
を清くつらめそんもくうけぬわんよと
時ハおんつらめそんもくうけぬわんよと

乃ん吾んがらふと志りく清くんやする人
おののむりけし人れあきとと
ん海にひるなり吾身乃血のなりよびん成り
りて君ふけし人志りけしとめくむ成り

真福寺本願氏長者授常日資人四人貞太一
納言從二位右大臣養老二年任太政大臣辭
受母車持國子君之女也養老四年三月一日病
卧為救大臣病賜度者九十人大救天下同日
令都下四十八寺一日一夜讀誦兼師經同月三日
薨六十三日十日詔贈太政大臣一位文忠公追

東海東山道節力使近江若狭按察使中衛大將
參議從三位氏長者女右大臣大紫冠藤我四維
目古女天平九年四月十七日薨五十七葬儀准大
臣同十月七日贈正一位贈食封二十戶於
其家限廿年。天平至字四年八月七日贈太政
大臣。是北家祖也。

宇合曰世乃人如公之位よとて海らふれんを歎
ふととむり人をも海らぬを若乃あつゆふ前との
けり前とととらふゆん下と。知とのと。妻とと

西海道節度使常陸守遣唐使太宰帥式部
卿正三位參議本名馬養天平九年八月五日
薨四十四号式家贈太政大臣正一位

藤小黒麻呂曰人として一言も悪と語らざるは物
と換ト人を失ふ事一。大人を天下に及
ひ。八里郷におよぶものなり。此等乃そのハ一且
さくうゆりともと。必天比乃神にみくが

種言言三
るをほほゆよかゆゆひ大由より志もゆきま
道乃哭之友と取くほのよ此後にもむむとの
道があふすぐり成みまぐーべの人のあふ
あひわるとらむむらとふく人とほはるゆり
我の吾愚乃読あくあ免ほりにさくひ人ゆま
かゆゆ

從一位右大臣天長三年七月廿四日薨_レ時五十
二歳南園堂本朝や贈太政大臣正位乎閑院
大臣按家及祢長遠祖也
藤良房公曰なつくく人好志もく好まるとあふあひ

すわふと。乃におもいとうくろまのあ。かゆのよか
ひや。まふまふひわうた。乃よまふひわうあ。若
若若と志まごも若まごは免くごさ。若若
乃若なる事と。志まねとまゆをまご志まねあ
若若と志まねと。乃よまふひわうた。乃よまふひわうあ。若
若若と志まごも若まごは免くごさ。若若
乃若なる事と。志まねとまゆをまご志まねあ
若若と志まねと。乃よまふひわうた。乃よまふひわうあ。若
若若と志まごも若まごは免くごさ。若若
乃若なる事と。志まねとまゆをまご志まねあ
若若と志まねと。乃よまふひわうた。乃よまふひわうあ。若
若若と志まごも若まごは免くごさ。若若
乃若なる事と。志まねとまゆをまご志まねあ

延暦廿二年甲申 誕生太政大臣貞觀十三年四
月十四日詔賜三千戸同十四年三月九日依_テ病
賜_レ度者八十人天下大赦同年九月四日他男
六十九歳贈正一位封義濃國母尚侍義都子貴作

郷女諡曰忠仁公忠仁公西三條右大臣兄弟相
並左右大將初創也号白川殿或又号深殿

藤基經公曰このまゝありたりとてとほくしむ
よのづかき事賢くしるを待たざるあり賢くして
のまゝありたりとて此乃のよきまわくありあり
よのたわり

良房公男攝政太政大臣從一位母贈太政大臣經繩
公女寛平二年十月晦依病贈度者成人大赦
天下同十二年十月太政大臣上表同十三年正月
十九薨五十六贈正一位封越前國諡曰昭宣公

源枝義公曰このまゝありたりとてとほくしむ
勝ありとよもふはゆるものなりとて
まゝかゝるゆゑに君子とてよきとせむ一念善く
いふ念乃歎美するなりとてのなりをいふに
勝はざるものありとていふは先乃神なりとて
とてはら乃神なりとていふは先乃神なりとて
とてはら乃神なりとていふは先乃神なりとて

宇多天皇弟八皇子敦實親王男天曆五年七
月九日生依鶴鶴神傳継家左大臣正二位左大臣
贈從一位内大臣母左大臣時平公女長徳四年七月

一とて愛ゆり

天武天皇十七世豊前守房則男也内近藤人従
位下雜色没自不分明弄人

丹氏康頼曰凡醫乃妙儀也。現ふ夕ふふ。そんく
れず。然の介やまを二瓶ふす。らんや。あえつらにら
る。みく。妙さす。ま。わ。ま。う。れ。お。り。ひ。な。ま。れ。い
る。こ。の。い。け。ろ。地乃がなやま。と。わ。さ。ま。う。ま。あ。い。か。ま。ま
し。ど。の。も。と。が。な。め。う。し。て。び。す。と。ま。せ。け。れ。の。こ。の
し。と。地。あ。

後漢靈帝十一世大國之男也始賜丹波宿禰

丹波天田部人醫術通神。吳麻養益天下。針
醫博士左。東門權佐。從五位上。永觀二年十一月廿
八日。以醫心方三十卷。撰進。公家子孫相續。以醫術

業

橋好古卿曰一言なりとも。微ある道と。た。ら。あ。ま。う。こ
ぬ。と。も。中。の。乃。謀。計。を。云。へ。う。く。ば。その罪。あ。免。つ。ら。に
く。の。ひ。く。は。さ。あ。古。人。も。是。と。考。に。い。ま。め。地。の
や。ま。く。て。う。す。う。行。う。ら。ら。ふ。あ。ま。乃。い。ら。ん。と。い。ま。す。
人。の。一。念。乃。中。よ。三。子。累。乃。積。あ。り。

敏達天皇十一世右中弁公材男也冬強天大弁

右忠の權佐太宰權帥文章博士從二位大納言
母橋貞樹女天祿三年正月十三日於右宰府薨

時八十歲

平高棟王曰人乃何一之時也神よ求されし
る川流かよふ河一うづる所も若手練すまじ
も。拙とのまふ降すりあ。いんやまれば。河
はすふら神明不心も是高敷なむ。人
なつ代もて高敷よならん申歎べ

桓武天皇皇子葛原親王男也正三位大納言
兼和十年閏七月七日父親王順抗表賜平

朝長姓貞親九年五月十九日薨六十二歲

藤良門公曰氏をくをすらす君を名よめ
は。其拙乃突と求め。色と愛と好む君ありあ
が氏をあらすらす申あ。君を人をもせむれ
る必もくもて。おあをや

左大臣冬嗣公六男正六位上内舍人母安部笠雄

女也贈太政大臣正二位

藤時平公曰。誰もの。賤や。譽とつこま。誰
誰なるもの。貪と穢は。む。び。二。の。の
くる。く。拙。の。降。や。一。也。その。若。也。

わめつらと魚うしなり

昭宣公男攝政正二位左大臣母人康親王女延
治九年四月廿日薨二十九歳翌日贈太政大臣
正一位本院大臣是也

藤師輔公曰地もまふし時をふ黒乃いさこををふ
ぬがよ。日八月ふなり。月を年とありてその
廣大ある中大山おかし。人山をみくそのさるさる
とふく知とよとと一粒乃沙山山やがるとふ
深ふとひまこふ得志わるととふふのさふで
かまゆまのげ中融するもの。祓あめつら乃

中乃たつと成べし

攝政太政大臣忠平公男若近大納言正二位右大臣母
右大臣源信有る女天徳四年八月廿日薨六十

二歳贈太政大臣正一位美九條又且坊珠

源順朝臣曰吾妻時乃居るすおわり。徳とそその
くゆふよりびその物と意とて。おのふを種。次
きくはゆいんとわりくふよハあくと。阿久乃公のつ
まどがゆいん地乃ふあて種ぬらぞ。さねと
系乃種ぬべし

嵯峨天皇四世左馬助兼之男信冬も後四位下

和奇道人古今之双人也永觀元年卒七十
三歲自然智之人也

蘇道長公曰少々々々を仰とす。そのまが智と
仰とす。そのまが智とす。人乃やうにうす。其
れど是より一ゆゆとて無人なり。性智と智
とのらり。并に向あり。世に其乃のり
ゆゆとす。そのまが智とす。人乃やうに
智乃のまが智とす。人乃やうに。其乃の
神明乃授とす。尺儒乃二道とす。結とす。其也
九条園白魚家也。男也。氏長者。攝政大臣母

贈正一位時姫參議安親の女成五位上栴津守
中女万壽四年十二月四日薨六十歳号御堂

法成寺

大に維時卿曰。凡善人々人乃公さしを感す。若
祈をすてハ。親疎なく。うをうす。人ハ人の
とみく。ああ。福貴なる。成す。う。や。色
い。う。の。なり

院勲朱雀村上三朝侍讀東宮學士文章博士
從三位中納言母藤原冬人巨勢文雄女也應和
三年六月七日薨七十六歳号從二位

大江匡房郷田なりく人此郷の事と并へ知
らざるにふり利と欲より一途ある所を介し不
かしてむらりてむらりてむらりてむらりての也

信濃守大江成衡初右男太宰帥正二位権中納言
母橋孝親女天永二年十一月五日薨七十一歳本

朝軍衛監賜

菅是善郷田なりく人此郷の事と并へ知
らざるにふり利と欲より一途ある所を介し不
かしてむらりてむらりてむらりてむらりての也
かのもよもふり利と欲より一途ある所を介し不
かしてむらりてむらりてむらりてむらりての也

いととよのまがらふよもふり利と欲より一途ある所を介し不
かしてむらりてむらりてむらりてむらりての也
かのもよもふり利と欲より一途ある所を介し不
かしてむらりてむらりてむらりてむらりての也

慶長二年八月晦日薨る時六十八歳
文章博士又安元年八月廿九日誦漢書元

菅通真公曰世乃人色欲とよめりやうに人のい
まよりをむらりてむらりてむらりてむらりての也
かのもよもふり利と欲より一途ある所を介し不
かしてむらりてむらりてむらりてむらりての也

なまの人なり。又玉るとりりかゆ。右函の北をか
み。所し。も。み。入。く。お。い。あ。る。人。と。市。な。り。冬
王。或。周。公。且。宣。王。吾。物。乃。先。世。の。小。智。乃。及。中
北。と。月。を。信。ひ。け。り。あ。ん。ぞ。と。世。の。小。智。乃。及。中
ま。呼。痛。式。お。智。ハ。さ。う。を。く。邪。智。乃。と。な。り。世。中
そ。う。く。そ。く。佛。者。儒。者。乃。お。ま。の。ひ。よ。と。の。道。つ。な。り
あ。く。わ。く。と。ね。お。し。る。教。を。せ。し。と。又。く。あ。ら。う。い。ま。こ
ま。の。な。り。一。方。法。一。め。乃。さ。う。わ。と。お。し。き。て。後。の。事。お
ま。し。ま。く。わ。も。そ。に。信。ひ。て。お。ま。が。ゆ。也

九条岡白師補公八男從四位下少将母稚子内親

王女離世登此叡山横川出家号如覚又曰多武峯
少将哥人達天台奥旨出家之後猶名哥多
源經基王曰謀及人乃外也皆死罪とあるを流し
川也。是天れか。して地乃のむ。む。忍。なり。我。に
れ。ふ。は。も。も。の。を。み。く。く。び。よ。紅。海。い。ま。が。り。
け。の。先。祖。と。さ。ん。く。あ。ん。子。孫。と。新。事。や。う。う。
ん。れ。お。し。う。あ。く。ま。は。も。が。り。こ。

清和天皇中六皇子貞純親王男鎮西將軍左
衛門正四位上左馬从天性達右馬武畧長也
天德五年六月十八日賜源姓母右大臣源能有

公女天德五年十一月四日卒四十一歳於西八条池
為龍今任之

藤忠通公曰物乃多よよせの治記人れ昔
く何くつらくせり古と人乃いふの事と地を
公いし人是とがも後と人れを可し
の事もふし人乃公時を物れも又
物人よよせ何り地人よよせと習べし
攝政園白忠實公男從一位太政大臣攝政園白氏
長者母後一位師子右大臣顯房公女長寛二年二
月十九日薨六十八歳号法性寺殿

藤和宗公曰人の土産にその國の物をもくめく
すらしきとらひおもしり
祿取くおもるそわびしきとらひ成人は
若くしてわね方よく求てし君も長
もいしをわいしと

道長公男左衛門督後一位右大臣母多明
康平六年二月三日薨七十三歳堀川中御門持

明院一条白河寺祖
藤資業卿曰一切乃きしハ國家とくさく
乃一切珍味ハ命をせしハ大敵なり
け

歌に組するものハ坊の味方にもなり
そのハすく

後二位有國ハ又男又章博士右忠佐左中弁
從三位母幡摩守仲遠女永承六年二月十八日
出家法名素舜号百野三位日野法界寺業師
堂建立之人也

藤兼實公曰人稱心うらむ時ハその志を以て君
と志し神明佛地と志すは極く君と
たがひハ人ハ父代アリハ明友と失ふハ
多時ハ人をとりて終ハその志と志すハなり

法性寺忠通為三男從一位関白攝政太政大臣女
大皇太后又大進仲光女建仁二年正月廿七日
出家名素兼元々平四月八日薨又十九歳号
月輪殿又曰後法性寺九條二条一条寺元祖也
藤良経公曰君乃位に居く志すハ由乃業ハ
又君乃わらふハ哭くも地是とく之ハ禍ハ
又君乃わらふハ哭くも地是とく之ハ禍ハ
のちみして地乃まことなり

関白兼實之三男也攝政太政大臣母後三位兼行

神諭言三
廿女建永元年三月七日薨於八歳号後京極

哥人

藤道家云曰世の人れ悪者たぢとんご悪兆とて
て神佛よいのもつる。おろり。あり。とのま昔行
とあさけ。被け悪ゆの清さうん申けまへうご
とあふおぞうててて

後系後良経云男也持政園白後一位氏長者母權
中納言能保心女也曆仁元年四月廿五日お家法
名行祐建長四年二月廿一日薨六十歳

藤山蔭卿曰まゝ人乃地つひてうに一毛乃

切りわがすくさる。も業乃被けなり。ゆよあぢく
れ一念乃亡悪がさる。の信也。被け字ハお信
ハ字ハ内ナるべ

正二位左大臣真名公世心位下三房朝臣之
二男也後三位中納言奉朝包下之盟賜也仁和
四年二月四卒六十五歳武畧名人也

藤家隆朝臣曰ゆよ海とあててさうもの
なり。被つよ昔人ハ申つに被けを求ておとのづ
海かまのなり。どうつらうものハお代求て被けと
まのあ。このあ。よおはひあつあ

内大臣兼左通公二男後四位上少納言母園白家

女房或貞任公女天治二年十二月朔卒

藤任長公曰人又乃若試との事くがみ藤よ死す

夫乃又新世の又座に多しきよ然とさば

我どもあれあ人あよんよえく目に志つらり

なり又乃若をさるわく純坤との事

元白太政大臣に教通公二男後一位を改大臣母

公任卿女や寛治八年九月又日薨考九條

藤忠良卿曰人乃才一にさ出意中一步一座一

勁つ失わらん弟と共りし油乃とさすべし

如是ならんもあはに家國乃柱也成べし

近來園白基實公男也正二位大納言母左京大夫

顯輔女嘉祿元年又月十六日薨考栗田口西相

或曰鳴鶴

藤家良公曰人もつし時あはに候わけて

安らう人あまはとさりし川ありあや

あつ川あまはなるあ人さた仍いそんよま

あつねやあんきうの時人さにあや

とんやうすなを考あれはあ

人は那いふと中のみあれはあ

くなり行く。どどわらゆるゆりのを物なる。まんとな
る。も。し。さ。し。あ。い。な。ん。を。い。く。あ。い。ま。の。あ。
一かり

正二位大納言忠良の男。家。三。位。内。大臣。母。
大納言定能の女。永。元。年。九。月。十。日。卒。七。十三。
藤。為。世。卿。曰。凡。地。皆。由。是。及。理。小。う。ま。小。時。を。若。き。り。
を。理。に。り。あ。い。さ。ら。り。時。の。あ。

若定家の孫。為。氏。の。男。也。正。二。位。大。納。言。母。教。定。女。
正。安。二。年。撰。新。後。撰。文。保。二。年。撰。續。千。載。法。若。
明。尺。建。武。五。年。八。月。五。卒。八。十。九。歳。

菅高経卿曰。皆人乃ともり。れ。藤。氏。と。その。あ。ん。根。
本。乃。所。よ。お。あ。す。り。り。な。り。と。あ。よ。地。に。さ。く。れ。く。
必。事。さ。い。す。り。地。な。り。也。その。根。本。の。若。所。と。い。つ。り。の。
ま。り。が。ん。さ。り。び。所。よ。能。わ。い。あ。ま。そ。り。あ。り。あ。り。に。
し。と。天。下。乃。若。人。と。い。つ。り。地。あり。

從聖廟十世孫。武。部。大。輔。義。高。朝。長。男。也。氏。
長者。從。三。位。弘。安。十。一。年。三。月。十。日。逝。去。
清原頼尚朝長曰。今乃世の人。れ。能。云。ゆ。あり。そ。ま。り。
と。す。れ。ば。その。心。ひ。く。も。多。く。氣。乃。ら。が。い。わ。る。に。と。い。
と。た。ら。ま。り。あ。い。ま。の。さ。の。ら。が。い。わ。る。ま。ま。れ。よ。大。方。り。

人としていふ。志欲にわたりて下とす
物あり

宇多天皇十世後二位依り貴推賢の男使
別當左兵衛督右中將を儀正三位權中納言
母但馬守信總女也依天下之事被召武家

お甲斐國被誅之時四十六

藤原忠公曰人乃急難と救ひ貧窮のよれをたも
けずこれとすをわたりて屋敷とすといとぞりある
このちうあつて天乞と助く此の若くはあま
子孫も承くといてさういふ中乞天下の若也

トの世め公乃人ありといふと身乃あまうて
天地乃あまねこの名憐れ家とあつて次

近末後正攝左大臣家平云男園白左大臣母家
女房親慈三身八月十二日薨す堀川建武
二年五月お奔南朝牛車兵杖隨身左大臣後
一位也

藤原公任郷曰人乃才一乃後悔と云ふと下めをわ
りくもすといふとけりまが家なり。是よりわ
るく乃事おわりけりまのなり

太政大臣後一位園白頼忠云男也号曰隆之入別

室一流也

藤通憲曰人々るる一室のなりふらるる一室をた
のめらるる一室ありてんがうをたのめん。貧
若なり。あはれらあひひびる。物とてをたれま
すねえりあり。

文章博士實兼男也從四位下少納言母位濃
守源有房女或下野守有家女或通宗女或母
院女と諸道才人也通九流八家本朝才人亮
一と後二條院依勅記今記之

藤實文と卿曰とらんく乃藝とらんあはれと見

あまのうらみはかたどぬ心徳とけと見おとさく
かみす賢人とある。物いふんぞ人なるは及
はと見いつとさうや

滋野井正二位中納言公亮の男正二位權大納言
母左大納言有云女乾元二年五月廿七日薨六十一
歳實後曰世の中は助と女とのハ小大とかく天下
の祿とあふハ誠ニ國家乃ちさうと感一。天子よ
うの友位とたまわりあり。或はわその身よ新て
作祿とたまわりあり。月と何とさく氣
進と考よと忠に進と義ふと人徳とすむ

西園寺実兼公の男也。号菊亭。後一位右大臣。曆

應元年十二月二日。出家。号静。同二年二月十

六日薨。五十五

藤公雄曰。阪下乃壽。よけわうに漸んかまよ
やうみおんかあづばーもたご物なり。理くそむ
くやまのこどあづうけなり。吾志。時。居もく
あしーだく。に花をさうせく。さう乃。あ
面白。あもど。さく人丸。赤人。あ。の。是。連。の。心
を。理。ふ。あ。う。の。と。も。ゆ。り。ゆ。ら。あ。見。つ。ら
乃。な。う。の。理。の。あ。う。の。ゆ。り。ぬ。の。鬼神。乃

い。わ。も。あ。ひ。さ。の。の。ゆ。り。も。げ。わ。あ。の。一。し。し
お。い。は。ね。あ。ま。と。は。せ。乃。あ。い。さ。く。の。と。あ
と。の。鬼神。の。い。り。は。え。と。及。も。す。な。げ。う。よ。を。あ。ら
あ。う。ゆ。あ。い。錢。の。ま。に。地。え。人。の。是。も。と。を。な
じ。う。あ。ん。物。う。あ。い。ゆ。ら。う。

山階方大君実雄公二男也。小倉別当正二位大納言母

頼氏女。文永九年二月廿二日。頼死。奇人也。

藤公蔭。御曰。君。ま。下。と。あ。の。一。路。小。御。子。の。ゆ。り
居。又。あ。ま。け。う。ゆ。り。と。父母。と。あ。う。あ。が。ゆ。り。ゆ。り。あ
あ。ま。し。て。居。り。地。よ。あ。て。あ。見。一。ら。と。久。し。か。う。

正親町大納言實明の男也後醍醐天皇の二位大納言母後二位兼嗣の女觀應三年八月十二日出

家室靜通文安三年十月十八日薨

藤公重信曰内小酒を治と外は一應とありなむ
そと者ありとれあといふあり呼應式人ひま
く一生をおくるとや

室所大納言の女成の男也正二位大納言母后太
実有公女弘安八年六月十日薨号四辻當時

号薨

藤公孝公曰皆人若あらん事を治とも
先人

名あもいふ若ありて後とすんどのあもいふ若あ
とのありとるうの行りのあもいふ若あ
中とあもいふ若あとして之りてあもいふ
若あもいふ

徳大寺太政大臣實基の男也後醍醐天皇の二位大納言母后頼平の女也
不経大長乾元三年七月八日

太政大臣素元三年七月八日家同廿二日薨

孫公清公曰富さうとかがさうはるうとあもいふ
さうとあもいふさうとあもいふさうとあもいふ
あもいふさうとあもいふさうとあもいふさうとあもいふ

二條園白兼基公男也氏長名栲政園白從一位
左大臣母侍後為顯朝長女或為長女建武二年
二月四日薨四十八号後元明昭院

藤内實公曰兼とて書とすりてあま
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる
かたもくまのうまのわの文章と好まのる

まらあらん

一條從一位栲政園白家經公男正二位内大臣母二
位中御良嗣女嘉元二年十二月十七日薨廿九

歳号栲心院

藤為方曰里々位人乃徳々々々其の者々々
者々々その人其々々々々々々々々々々々々々々
乃者其々人其々々々々々々々々々々々々々々
のこりやんやんやんやんやんやんやんやん
中わん

中御門大納言経仁公男也正二位権中納言母大

納之雅房の女元四年十二月十一日卒五十二歳
藤経長曰と世の儒教を道を知る人あり儒の
里を教るといふを教るよりハ儒をたつてしむ
もふ乃るんあり世の聖賢あつたつてしむもこ
ゑ乃る人いづも昔をすめて慈をこころしめ
あり。然るんを代りたりたりやあり
るの中乃ありなるべし

吉田中納言為経の男也和泉義濃亦も二位大
納言母中納言定高の女也元々元年十一月十
八日お家法名浄元延文二年六月八日薨七

八歳吉續記此郷作也

藤隆長曰。法とよおはそを修行とつてしむ
いねく。終る乃を修行を。功身に勤心とく若ふ善
とりとまゝにわるとのいふ世乃無業と消してた
らるる。吾も乃神明乃いふをまめせん

吉田大納言経の二男也正二位中納言号耳露
又号吉田曰池原母備中守源泰親女也正中二年
六月廿三日お家覺源依法皇御事貞和六年
元七年二月廿五日薨七十四歳

藤俊文郷曰。人の氣をくくると人となつて此

徳なり。功業ハ夫あり。年知也。

坊城申納言俊實之男也。從三位中納言母隆長

卿女貞治六年三月廿三日卒四十八歳

藤経顯公曰。多し。次信性より人好むとして

人乃信性よりいへば。わやうに。つらあせものなり。

是よりいへば。このかた。いへば。なり。

我亦乃風俗なりや。人れよ。我國のら。つら。ハ。信

性。の。日。の。と。と。天照乃御筋の。と。は。君。た

ま。他。の。人。と。と。に。た。へ。よ。せ。り。み。り。の。の。す

急。り。あ。い。も。の。を。孫。に。め。て。い。く。そ。あ。が。見。ぬ。家

ゆ。い。び。と。け。も。あ。わ。わ。り。なり。

坊城申納言定資之男始。勸修寺内大臣

母隆康卿女應安六年二月五日薨七十六歳

芝山

藤宣明卿曰。人。と。ま。う。と。時。乃。交。と。す。く。に。や

い。ま。だ。と。と。り。い。女。を。す。て。あ。ん。が。い。を。失。り。ぬ

その。あ。ま。い。る。もの。な。り。の。な。り。の。な。り。の。な。り。

け。の。う。ら。ま。い。り。の。い。ひ。い。も。い。へ。い。

中御門從二位隆宣之男從二位隆中納言母肥後

守友長女貞治四年六月廿日薨六十歳

藤友房郷曰貴とありけりしとあり孫奇とも
てありつるが如くづよおりの身ふたあり仁義とあり
足求る心ありけり君子國いよありけりて月と日
日と月人といふけり君賢人をとてけりけり又
人と求る心をけりひるが國家とけりけりけり
万里小路從一位大納言宣房の男也從二位中納言
君依不入給諫言俄道世也奉朝中古之賢臣也
一生至言多し其書号天鏡記今此一句依不載彼
書記之

公郷部上終



倭論語卷第三終

